

全体で共有すべき内容＝配布資料に記載すべき事項

【分科会3】

東日本大震災における福島県でのボランティア活動、及び全国各地における避難者へのボランティア活動、
東日本大震災以外の災害（台風、大雪等）でのボランティア活動

【これまでの取組を通じて明らかになった課題（今後の課題も含む）について】

○福島県内

- ・法テラスの相談件数、女性問題の相談件数が増えてきている。（DV・離婚など）
- ・暮らしの実態がつかめていない。ニーズも十分に把握できていない
- ・原子力災害に対してどう関わっていくのかスタンスがはっきりしない
- ・支援の担い手が少ない・人材不足、状況がわかりにくい
- ・がんばろうと思っている人たちを見つけにくい（個別に探さないと見つけられない）
- ・意見、考えを示すと批判、非難されやすい（社会全体の問題）

○県外避難者

- ・避難者の意向（避難区域・警戒区域／戻りたい・戻りたくない・戻れない等）への配慮
- ・母子家庭特有の問題、避難先の生活費・移動経費など経済的な問題
- ・支援継続の課題（環境整備、資金調達等）
- ・名簿の共有のしかた、行政との連携、行政の支援の格差

○震災以外の災害（大が小を打ち消す）

- ・台風第 12 号水害、なかなか注目されなかった。ボランティアが集まらなかった
- ・小さな規模の災害 VC では受入れきれない

【今後の取組の展望（注目すべき視点、注目できる事例なども含む）】

○福島県内

- ・関係者間の調整・マネジメント、案件を動かす人材）
- ・地域の中で支援団体間のネットワークづくり（学生ネットワークなどにも注目）
- ・雇用の機会・仕事づくり（工房や畑を提供する動きが出始めている）
- ・自立支援プログラムをうまく活用していく（生活支援相談員向けの研修はやっているが）
- ・地元でがんばろうと思っている人たちの応援（プロボノ、人材支援、組織支援など）
- ・バラバラな状態を、パッチワークのようにつないでいく支援 * 県内外共通
- ・福島県内からの情報発信がポイント

○県外避難者 『交流と自治がキーワード』

- ・避難者のグループ化、避難元のネットワークづくり（サロン活動、イベント、勉強会等）
参考：三宅村：いのちの電話帳づくり
- ・サロン活動を続けていく（ほっこりできる場づくり）／密につながりながら
- ・行政との連携、顔の見える関係をいかす
- ・どこでだれがどういった暮らしをしているのかの把握する
→支援プログラムづくりにつなげる（多様な支援、専門的な支援、ひとりひとりへの支援）

○平時からの取組

- ・広域連携：具体的な支援計画づくりを考える（どこの地域を、誰が支援するのか等）
支援・受援の関係づくり／広域連携特別チームで検討すべき／静岡訓練など参考になる
- ・災害時に安心して避難できる具体的なしくみづくり（パーソナルサポートの重要性）